

令和6年度 牧之原市総合教育会議

日時 令和7年2月26日(水)

午前9時～11時

会場 市役所相良庁舎 大会議室

●出席者

杉本基久雄市長

橋本勝教育長（牧之原市教育長、牧之原市菊川市学校組合教育長）

【牧之原市教育委員会委員】

吉住幸子委員、池ヶ谷祐太委員、渡辺彩子委員、本目弘昇委員

【牧之原市菊川市学校組合教育委員会委員】

近江賢市委員、八木香代子委員、永田康彦委員、山本和波委員

【事務局（総務部総務課）】

大石総務部長、横山総務課長、瀧口

【教育委員会事務局】

竹内教育文化部長、永野教育総務課長、中村学校教育課長、佐藤学校教育課
主席指導主事、宮部学校教育課指導主事、芝原学校教育課指導主事、北西学
校教育課指導主事、大石学校教育課教育相談員、小塚学校再編推進室長、佐々
木社会教育課長、大石スポーツ推進課長、日野教育総務課主幹

1 開 会

○横山総務課長

本日は、お忙しい中、御出席いただきまして、ありがとうございます。本日の進行を務めさせていただきます、総務課長の横山と申します。よろしく願いいたします。

ただ今から、令和6年度牧之原市総合教育会議を開催させていただきます。はじめに杉本市長より挨拶をお願いいたします。

2 市長挨拶

○杉本市長

本日は令和6年度牧之原市総合教育会議ということで、大変お忙しい中、お集まりいただきましてありがとうございます。

また、日頃から牧之原市の教育行政につきまして格別のご理解ご協力を賜っておりますことに、感謝申し上げる次第でございます。着座をしてお話させていただきます。

昨日、牧之原市議会の2月定例会が開会をいたしました。令和7年度の当初予算を計上させていただきましたが、過去最大、対前年比30億5,000万円増の247億5,000万円ということで、対前年度比14.1%増という大きな予算になっています。その中でも5つの重点プロジェクトを中心に予算の計上させていただきました。

私は、この1年の漢字を創出創業、地方創生の創という字にいたしました。この意味は、令和7年度予算を創出創業創造予算と名前を付けましたが、まず大河ドラマによる交流人口、関係人口の創出、それから雇用の創出、そして道の駅が7月に開業いたします、創業開始ということで創業の創。それから、新たな義務教育学校を造っていくということでの創造、現在、開発を行っている高台の賑わい創出、あるいは、移住定住場所の創出というようなことで、創出創業創造予算ということになります。そのような中で教育費は35.1億円の予算を計上させていただきました。そして令和6年度は25.5億円ということで、9.6億円増の37%増という予算を計上させていただきました。

そのような中で、特に教育費の関係で言いますと、義務教育学校の整備について、学校施設整備費基本構想基本計画に基づきまして、榛原地域、相良地域の義務教育学校の建設に関わる業務を行うということで、榛原地域においては、学校施設の基本設計、学校用地の造成設計、既存施設の解体設計、施設拡張部分の用地取得、榛原中学北側に用地を拡張しますので、その用地買収も来年度行うということで、2億6,630万円を榛原地域の学校整備に充てます。

それから相良地域については、学校用地の用地取得として、新たな場所に建設場所を求めますので、大沢インターの北側になります。その約6ヘクタール余の土地の買収ということで、用地取得とそれから住宅移転もあります。進入路の用地買収、自然環境の調査などを含めて9億6,000万円余の予算を計上させていただきます。

さらには、これとは別に埋蔵文化財調査に約6,000万円ほどの予算を計上しているということで、義務教育学校の整備関係だけで、約13億という予算を計上いたしました。いよいよ義務教育学校の事業が動き出すという初年度になるということになります。

それからもう一つ教育の関係で言いますと、今日の議題にもございますが、AIの取組などを教育のDXの推進ということで、全体で約2億8,000万円余の予算を計上しました。このうちの2億円余は、児童生徒の学習用情報端末の更新ということで、GIGAスクール構想で端末を生徒1人1台導入しましたが、5年を経過したということで、新しいものに変えるという中で、今回は新規ソフトの生成AIサービスの導入、これは新規であります。これを全県下で導入するのは牧之原市が初になります。これも一つの目玉政策ですが、約6,000万円余ほどの

予算を投じて導入するという一方で、端末を入れるだけではなく、いかに活用するか、ということを目指しています。中身については後ほど担当から、今日の議題の中にもありますので、詳しくお聞きをしてもらいたいと思います。

予算のヒアリングでは、予算を組むのが大変だったので、これは我慢してもらうか、先送りをしてもらおうかという状況でありましたが、担当の思いがすごく強くて、市長ぜひやらしてくれと、ぜひ1回授業を見てくれということで、地頭方小学校でのデモンストレーションを見に行かせていただきました。これはすごいなということで、私の独断というか決断で、これやろうということで決断をさせていただきました。

後ほどその熱い思いを聞いていただきたいと思います。やはりこのようなものは、上からやれと言われても、なかなか現場はやれなくて、やれと言われたから仕方ないという思いでやるのと、自分からやりたいというのが認められたからやるというのでは動きが違うと思います。今後の結果を非常に楽しみにしていますし、その意欲を思いっきり出してもらって、県下初となるこの事業を成功させてもらいたいと、そんな思いでいますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

本日の会議ですが、協議事項にありますとおり、不登校児童の現状と課題について、そして時代に対応した教育の充実に向けての2点につきまして、その内容等についてご説明をさせていただきます、ご意見をお伺ひしたいと考えております。

本日の会議におきましては、協議事項についてこの場で何かを決定するものではございませんので、限られた時間の中でございますが、皆様の率直なご意見をお聞かせいただきたいと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

○横山総務課長

ありがとうございます。それでは協議事項に移らせていただきたいと思ひます。会議につきましては、市長が座長となることとなっておりますので、協議事項につきましては、市長に進行をお願ひしたいと思ひます。なお、委員の皆様には、ご発言をされる際にはマイクの下ボタンを押していただき発言をしていただくようお願ひいたします。それでは、市長お願ひいたします。

3 協議事項

(1) 不登校の現状と課題について

○杉本市長

それではまず、1件目の不登校の現状と課題についてであります。それでは説明をお願ひします。

●学校教育課 芝原指導主事

【 不登校の現状と課題について の資料を用いて説明 】

○杉本市長

ただいま説明をいたしました内容につきまして、皆さんからご質問、ご意見を伺いたいと思います。挙手をしていただきまして発言をお願いいたします。

○近江委員

分かりやすい説明をありがとうございました。限られた職員の中で学校、または市全体で不登校の子にかかわっている姿というのが見えて、ありがたいと思います。私は不登校の事をもう少し長いスパンで見たいと思い、自分なりに国や県の傾向を調べてみました。そのことを最初お話して、意見を述べさせていたいただきたいと思います。

全国的に言うと、平成 10 年から 24 年までは、不登校の数はさざ波状態で、そんなに大きな上昇もなくきています。平成 25 年から少しずつ上昇をし始めて、令和 2 年から急上昇しています。

静岡県のことでお話をしていきたいと思いますが、令和 5 年度の不登校は小学校が 4,679 人、中学校が 6,845 人、全体で 11,524 人で 1 万人を初めて越したということになります。

平成 26 年度を基準にして、令和 5 年度が何倍になったか比較をしてみましたところ、令和 5 年度は小学校が 4.8 倍、中学校は 2.3 倍、全体では 2.9 倍に増えています。全国では、小学校が 5 倍、中学校が 2.2 倍、全体で 2.8 倍ということではほぼ同じような傾向です。

1,000 人当たりの不登校の人数で比較すると、全国平均では、令和 5 年度が 1,000 人当たり 37.2 人で、静岡県は 43.2 人ですので、全国よりも高くなっていて、これは全国でいうと 6 番目になります。ですから、静岡県は不登校の数としては多い方だということと、それから令和 2 年から急上昇しているということになります。

学年別でどうかということ、県の資料で分かる範囲で言うと、平成 30 年から令和 5 年までで、不登校の数が何倍になっているか調べたところ、小学校 1 年生が 3.7 倍、2 年生が 3.5 倍、3 年生が 3.1 倍、4 年生が 2.7 倍、5 年生が 2.5 倍、6 年生が 2.4 倍、中学校 1 年生が 1.9 倍、2 年生が 1.7 倍、3 年生が 1.7 倍でした。このことから、小学生が非常に増えていることが分かります。特に、小学校 1 年生が 3.7 倍とすごく増えているということが分かりました。

これは、令和2年からですからコロナが始まった頃で、学校が閉じてしまった頃ですので、コロナの影響を小学生の学年が小さい子ほど強く受けているということが想像できました。

登校なしのリモートや、マスク生活、感染防止生活、友達と遊べない、上級生の顔と名前がマスクをしているから覚えられない等、そういうところで人間関係がなかなかできなくて、生身のコミュニケーション力が順調に育っていかないということや、勉強も思い通りに進まないという中で自己実現をできた子はいいんだけど、できなかった子も多くいるのではないか、その数がこの不登校の数に出ているのかなというふうに感じました。

牧之原市も静岡県傾向とほぼ同じか、それよりもちょっと高い部分もあると思います。ご提案の中で不登校生徒の受け入れる環境を整えることというのがありましたが、まさにその通りだと思います。人手不足とか、特に小学校は級外が少ないですので、一人一人、個別で対応するとなると難しくなってくるというところがあると思います。いろいろ工夫をしながらやられていると思いますが、やはり人が必要だと思いますし、サテライトが相良に昨年6月からできたということで、素晴らしいことだと思います。ぜひ、それを充実をさせていただきたいし、予算的にもカバーしていただきたいと思います。

それから民間のフリースクールとの連携もやはりすごく大事で、ある一定の基準をクリアしているフリースクールについては、資金的な援助を考えてほしいと思います。私の友人も、教員でしたけど、ちょっと早めに退職して、志をもってフリースクールを焼津に開設をしました。「しいの木」と言いますが、経営がすごく大変なようです。私もクラウドファンディングでいくらか援助しました。保護者の皆さんからお金はいただきますが、それだけではやっていけないというのが現状だと思います。ですので、そういう真剣に不登校の子どもたちにかかわってくれるフリースクールに対する支援というのにも必要だと思います。

もう一つは不登校児童生徒を出さない手立てを明確にすることが大事だと思います。限られた職員の中でやっていくわけですので、難しい、限界などがあると思いますが、例えば複数担任制にすることで、子どもたちを見る目を、二つから四つにすることができます。やはり多くの目気付きが必要だし、コミュニケーション能力等が順調に育っていないお子さんも多いということを前提にして、いろいろな子ども理解の研修などを進められたらいいかなと思いました。

あと不登校になってしまったら、なかなか簡単には復帰できない現状があります。私はまず正しい「見立て」ができるスーパーバイザーを確保することが大切だと思います。どういう原因でどういう症状で、どういうことを考えていて、ということがきちんと分析して見ることができる方が必要です。多くの経験をもったスーパーバイザーはそんなに多くいません。スクールカウンセラーやス

クールソーシャルワーカーとのケース会議とかそういうこともとても大事だというふうに思います。

○杉本市長

ありがとうございました。いろいろ県や国の現状を調べた上で、様々なご提案いただきましてありがとうございました。その他いかがでしょうか。

○池ヶ谷委員

不登校のことについて資料を見ていろいろ考えましたが、今現状で不登校が30日以上学校に来ていない。その定義を変えていった方が良いのではないかと思ひ始めてきて、生き方が多様になっているという世の中で、本人や保護者とかが納得していれば、別にそれも良いのではないのかなというふうに思う中で、具体的にどういう子が不登校で困っていてとか、課題感があつてという具体的な事例を全て知っているわけではないので、一概に言えないのかもしれないですが、何かそういうふうに捉えていくと、この不登校にもいろんな状況があるのではないかなと思ひました。不登校が課題だと思ったらそれが課題になってしまうんだろうなというふうに思つて、そこを周りでちょっと認識を変えていかないと、いろんな問題なのか、問題じゃないのかというのが分からなくなってくると思ひました。

市の取組としていろんなことをやるというのは、いろんな生徒がいたり、子どもがいたり、保護者がいる中で大切だなというふうに思っているのも、そのアクセスする場所を増やしていくというのは、大切だなというふうに思ひました。それでもやる中で限界があつたり、こちらが想定したことから漏れてしまう児童生徒が必ずいると思うので、自分が期待したいのは、市内のフリースクールの関係者とか、そういう窓口を設けてそこと協議しながら取り残さないようにしていくというのはとても賛成だなと思ひました。

児童生徒が主体的に自分の生き方を選択していける世の中を多分目指していると思うので、それは教育で何とかなるところかもしれないですし、周りの環境がそういう環境になつていったらいいんじゃないかなと思ひながら聞いていましたが、皆さんどう思つたのかなというふうには自分は気になりました。

○吉住委員

多様性というのは十分理解していますが、私はすごく反対です。まず不登校をどんなイメージか私も考えてみましたが、まず就職のときにどれだけ困るだろうという心配があります。さっきおっしゃったように、引きこもりだとか、不登校も個性だという考え方がありますが、私はこれは、とても受け入れられない。

すごく本人にとって不幸な生活だと思えます。それでもいいと親も子も思っていれば、それでいいのだと思えますが、教育委員会とかこういう行政がそういうふうに、いいんですというのには抵抗があります。

もう一つ、保護者がどんなに疲れているだろうと思えます。私は毎日新聞を取っていますが、それによると子どもの不登校で仕事を辞めた親は5人に1人いるそうです。遅刻早退、小さい子どもが家から学校に行ってくれないとなると親は遅刻するか早退するか、欠勤が増える、これは7割が影響を受けると親御さんが言っています。私が厳しいなと思ったのは、4割がそれによって収入が減ったと言っています。もちろん不安なときに子どもを無理やり学校に行かせるなんてことはあってはならないことなんですけれども、先ほど委員がおっしゃったように、見極めるためにはやっぱり2年ぐらい支援をして、2年ぐらいで何とか傾向が改まらない場合は、やっぱり見極めをする。3年過ぎるとだんだん本人も何も考えなくなっちゃうとか、慣れちゃうらしです。不登校の状態に安心しちゃうとか、やはり慣れですよ。もうこれでいいんだって思っちゃうと思えますが、働く喜びとか、いろんな生き方はあると思えますが、自分で働いて社会に役立つ、そういう喜び、税金を払う誇りみたいのは必ず身につけてもらいたいなと思っています。その子たちにあるフリースクールでは、一番嫌でない仕事で食いぶちを稼げということを書いていました。私この意見にすごく賛成で、このようにしてくれるといいなというふうに思いました。

○杉本市長

ありがとうございます。それでは時間の関係であとおひと方がいいがでしょうか。八木さんどうぞお願いします

○八木委員

池ヶ谷委員の考えも吉住委員の考えもどちらも理解できて、生き方がいろいろ多様化している中で、小学生のなりたい職業にYouTuberが1位になっていたり、家から出なくてもできる仕事がすごく憧れの職業になっている一方で、吉住委員がおっしゃった親、保護者の方は一番つらいと思うし、本人もずっと学校に行けなかったら、つらくなってくると思うので、そういうどちらの気持ちも分かれますが、絶対に学校に行かなくてはいけないというような、周りからの強力なプレッシャーがあると余計に保護者も子ども自身もつらくなってくると思うので、その行けない状態を肯定してあげられるような環境になればいいなと思いました。牧之原市の取組がいろいろフリースクールとかフルールとかと連携して、学校へ出席扱いとみなされるというような状態はとてもいいなと思いました。

一つ質問ですけど、スクールカウンセラーとソーシャルワーカーの方たちがどのように関わっているのか。私は高校に勤務していたので、高校の場合はスクールカウンセラーが月に2回ぐらい来てくれて、そのときに事前に保護者や生徒が申し込みをして相談したいというようなことを行っていました。牧之原市ではどういう取組をされているのか教えていただければと思います。

○芝原指導主事

ご質問ありがとうございます。スクールカウンセラーとソーシャルワーカーさんですが、専門機関としてワーカーさんは各中学校区、カウンセラーさんもそれぞれ中学校区に在籍しています。まずカウンセラーさんに関してですが、週1回それぞれの学校に勤務していますが、やはり中学校でのカウンセリングの要望が多いです。先ほど説明させていただいたとおり、不登校の児童、生徒は中学校に多くいるので、相談件数によっては小学校勤務を希望に応じて中学校に合わせて対応しています。

相談に関しては、その月と学校の様子によって様々なので相談がない時や、ある時期になると急に予約が殺到したりすることもありますので、そのような時は時間を見つけながら、協力して配分をしたり、休み時間も使いながらうまくやっています。それでも足りない場合は県のオンラインの相談窓口や、直接対面のできる場所が掛川の方にありますので、そちらの紹介もしています。カウンセラーさんは相談に応じて不登校の対応や心の状況について話を聞いてくれます。ソーシャルワーカーさんについては、専門機関との接続をやってきています。その原因の背景を突き止めてくださり、例えばこれは経済的なことにより、学校に行かせられないとかというようなことがあれば、福祉相談課とつながって食料支援を行うようつなげることもしています。また、先ほど説明をしましたが、子ども第3の居場所と言って、働いているけど面倒を見なきゃいけない、休まなきゃいけない、でも預けたいといったときには、児童クラブとは違って無償で、静岡県内で初めてのようですが、そういった場所も紹介することができるので、ワーカーさんとカウンセラーさんにも、フリースクールとかフルールのことも市外の方のカウンセラーさんとかワーカーさんもいますので、知ってもらわないと紹介もできないってことで対応しています。

（2）時代に対応した教育の充実に向けて（A1の活用）

○杉本市長

次に、2件目の時代に対応した教育の充実に向けてについてであります。それでは説明をお願いします。

●学校教育課 宮部指導主事

【 時代に対応した教育の充実に向けて(AIの活用) の資料を用いて説明 】

○杉本市長

説明が終わりました皆さんからのご意見、先ほどできたら発言されてない方からよろしくをお願いします。

○渡辺委員

ありがとうございました。貴重な経験をさせていただきました。私自身も最初は ChatGPT に対して半信半疑でしたが、今では仕事の中で欠かせない存在となり、時間短縮にもつながっています。

新しいことに挑戦するとき、人は不安や批判から入ることが多いですが、今の時代、AI を使わないという選択肢はないと感じています。もし使わずにいたら、周りがどんどん活用していく中で取り残されてしまうと思います。これからのチャレンジが楽しみです。

とはいえ、使いこなす難しさも感じています。もっと良い活用法があるはずですが、まだ十分につかいこなせていないと実感する部分もあります。先生方も大変だと思いますが、ぜひ頑張ってくださいたいです。

また、AI を使うことで「考える力がなくなるのでは」という心配をされる方も多いですが、実際に使ってみると、いくつかの選択肢を見比べながら「自分ならどれがいいか」を考えるので、決して思考を止めるものではないと感じています。

今後は「AI を使うかどうか」ではなく、「どう使うか」が大切になってくると思います。これらの取り組みがどのように発展していくのか、とても楽しみにしています。

○永田委員

私はどちらかというと、逆にまだ AI は怖いなという思いが強いです。私は、もう退職してパソコンを使用することも少なくなってきましたが、これから新しい子どもたちにとっていかに AI が必要かというのは、今回のご説明でよく分かりました。インターネットのときもそうでしたが、最初取り掛かりの前に何か不安に思ったり、それが犯罪に使用されたりと、どんどん出てきてしまって、どうしてもそこの不安を払拭できないところがあります。行政なりがそういうところをきちっと把握して、いかに子どもたちに安全に使ってもらえるかということが、これから大事かと思いました。

先ほど説明があったように、AIによって、授業の準備、採点業務、お便り作成においてAIが使われるとありました。ただ一つ思ったところは、お便りの作成というところまでAIに任せるのはいかがなものかと、ある程度基本的なことはできるかもしれないですけど、このお便りの作成というのは、最終的にはやはり先生が目を通してもらって、訂正とか補足があれば、やる必要があるんじゃないかなと思いました。出来る事ならば、児童、生徒と先生、人と人の絆となるお便りは大事にしていきたいです。

これからのAIの授業というのは先が見えないくらい、いろんな可能性も不安もあると思います。子ども達を正しい道に導いてくれるAI学習であることを願います。

○山本委員

自分が今40歳ぐらいになって、子どもが小学校に行っていますが、自分世代、今の子育てをしている30代40代ぐらいの人と、今の教育現場の差というのがめっちゃめっちゃあると思っています。今、小学校に自分の子どもも通っていますが自分の子どもが、何をやっているのか分からない、小学校と保護者の連携というのが、特にコロナ以降だと思いますが、すごく減っていると思います。まず、保護者に学校で今こういうことを教えているということをもう少し教えて欲しいなと思っています。保育園までだと子どもの送り迎えの際に先生と話して自分の子どもが、どういう活動を保育園でしているのか、誰と仲が良くて誰と遊んでいるのか、その小さい変化に気付きますし、先生が教えてくれます。小学校に行くとそれが一気になくなるので、先ほどの不登校の問題にもつながるのではないかなと思っています。保護者も共働きが多く、子どもが学校で何をやっているのか分からないので、子どもの小さい変化にちょっと気づかないんですよ。そうすると結局それが積み重なって不登校になってしまうみたいなことがすごいあるなと思っています。なので、ぜひもう少し、特に年長から1年生の進学の際には、保育園の先生と小学校の先生が連携してほしいと思います。牧之原の保育園小学校中学校がほぼスライドなので、できると思うんですよ。その中で保護者と小学校の連携、今、自分の子どもがどのくらいの学力なのか、誰と遊んでいるのか、先生はよく見ているはずなので、保護者と先生がもう少し触れ合う機会があってもいいんじゃないかなとは思っているんで、ぜひそこは進めてほしいなと思います。

あとAIは、自分はとてもいいなと思っていますが、市長の最初の挨拶でもあった通り、かなりお金がかかると思います。AIにお金を費やすのは、これからの時代の中で、もちろん大切だと思いますが、やはり人がいてナンボだと思いますので、ぜひともAIを運営する上でのコスト面、あとその先生たちとの給

料面とか人とのバランスをぜひ考えてもらってやっていただけるとありがたいかなと思います。

○杉本市長

ありがとうございます。私も今回これ導入するにあたって、どの先生も使えるような環境、これをやはり作らないと使える先生だけ使って、使えない先生は使えないみたいになると非常に格差ができる。だからそこはぜひ、全体の教員のレベルを一定のレベルを上げてもらって、どの先生も扱えるという環境を作るのは大事だなと思っています。

それから山本さんから話がありましたが、今の提案について、こんなふうやっていくとか、今こうだよというようなことを答えられたら答えてもらえますか。

○宮部指導主事

学習の発信というところで行きますと、これも段階を経てなんですけども、例えばAIドリルを活用して子どもたちがそのドリルで学んでいけば、子どもの学習の苦手というのが「見える化」されるような機能が保護者も見ることができるようになるかなと思っています。

また、来年度からアプリを活用して欠席連絡を導入しますが、そのアプリの機能に子どもの学習ログが授業でどういうことをどのぐらいの時間学んだかというのがゆくゆくはデータ連携ができるようになって、ダッシュボードに「見える化」されるように出したいなというふうには考えております。

成績表が配られたときだけが、おうちの人が子どもの学習状況を知るのではなくて、見たいときにいつでも自分の子どもの得意不得意が見られるような環境がこれからAIだとか、ダッシュボードだとか学習eポータルと言いますが、その辺を活用していくとできるような整備を文科省も進めていますし、それに心の健康観察という子どもの健康状態がリンクして、どういうふうな状態か把握できるかなど。もっとさらに先に行けば、そこら辺がデータとして蓄積していけば、生成AIによってこの子は今、上り調子にあるから、これからこれまで頑張らましようとか、この子は少し落ち気味にあるから励ましを多くしましよう。そのためにみたいな形でAIが、きっともしかしたら伴走してくれるのかもしれないですし、教師の方はこれまでのデータの蓄積によって、この学級は今学級崩壊に向かっているだとか、この学級は今いい調子になるだとかという未来予測ができる日もそう遠くはないのかなと思っています。そのためには、教師自身がデータサイエンスに基づいてどのように統計学を扱うかという課題があります。今の学生さんは近い将来教育学部の、専攻の授業でデータサイエンスが入って

くるという情報もありますし、今の教師たちには知識がないので、どのように対応していくかというような課題があります。近い将来、そのような能力も教師には求められてくるのかなという未来予測はしておりますし、それに対応できる牧之原市でありたいなと思っています。

○学校教育課長

私も山本委員のお話を聞いて、終わった後に個人的少し聞きたいなと思っていました。幼保の連携と小学校と保護者の連携というところでちょっとお尋ねしたいなと。学校によっていろいろ違ったり、いろいろあるかなと思いましたので、その辺心配なところがありましたので、後ほどお願いします。

○本目委員

とても楽しく学ぶことができました。AI で、子どもの学びが深まりそうで、つまり、子どもが思ったことをAI が答えてくれるって本当にいい伴走者というか、今までだったら先生と支援員2人で子どもに関わっていましたが、もう一歩、一人ひとりにAI が関わるということで学びが深まりそうだなと、わくわくしてきました。先生方がこれを使って、子どもともっと学べる可能性を僕は信じられました。今日のプレゼンのような形で、先生方を巻き込んでもらえれば、本当に、自分たちがやっていることが子どもらの次代を切り開く力をつけているんだという実感を持って進められそうな感じがしました。ぜひ進めてもらいたいなと強く思いました。それをやろうとしてくださった、つまり予算をつけてくださった牧之原市に対して本当に嬉しく僕は思います。

指定校もやるということですが、より多くの指定校とか、あるいは授業参観で実践する姿を見れば保護者に理解してもらえんじゃないかなって思いました。先日、教育委員会を川崎小学校で行わせてもらったときに、小学生がタブレットを低学年から使って、色々な教科でも使っている姿を見て、本当に着実な形で学校教育課が学校と連携して、市の教育の構想を実現してくれていると感じました。さらに、このAI が始まるんだなという楽しみをすごく感じた次第です。

それからAI のドリルというのは、不登校の子にとって、実はとてもいい物かなと思います。フルールで使える場面があったら、いいなと思います。先週の水曜日に相良のサテライトにも行ってみました。1名の生徒が来ていました。フルールは非常に子どもが多いときもあります。不登校という心がいろいろ揺れ動いている子どもたちを、2人ぐらいで10数人をどう見たらいいんだろうと思いました。人数的にはもうちょっと先生がいないと困るかなと思いましたが、そういうときに、こういうAI ドリルというのも、先生の助けにもなるし、それは子どもにとっても支えになるかなと思いました。そういうところも広げてほしい

と思います。できればサテライトというところが自分も相良中にいたものから、フルールに通っている子に担任に会ってもらいたいので、空き時間が2時間とかつながっているときとか、昼休みから5時間目が空いている時間に、宮部くんにも行ってもらってたりしたけど、フルールに行って子どもと会話して帰ってきてもらうということはやってもらっていました。そういう意味では相良にあるということは、相良中の先生がもうちょっと子どもに関われる時間が生み出されて嬉しいなと思います。予算の関係もありますが、できれば間借りという形からフルールのような場所を確保してほしい。たとえば、相良庁舎の前の図書館がフルールのような場所として、そんなにお金をかけないで確保でき、その上、指導主事もすぐ関われるし、とてもいいことじゃないかなと思ったりします。予算も大変な中、不登校対策として心の相談員を、予算を切らないでつけていってくださいっていることに本当に感謝しています。サテライトができて嬉しいなと思っていますが、できれば、次の段階として間借りじゃなくて、予算をあまり使わないでできる方法、これから空き教室もあるわけですから、早い時期にやってあげられたら保護者も少しでも助かるのではないかと考えています。

○杉本市長

時間の関係もありますので申し訳ございませんが、この辺で切らせていただきます。先日、地頭方小学校に行ったときに、子どもたちは本当にこれについていけるのか、やれるのかなと思って見ていましたが、すごいのみ込みが早いんですよ。僕なんかパソコンを打つときに、いつまでたっても1本の指でしか使えないけど、両手でパカパカパカパカ早くてびっくりしました。そういった意味では子どもたちののみ込みも早く進んでいるなと感じました。教育長どうぞ。

○橋本教育長

今日の協議事項が2つありましたが、牧之原市の教育行政が取り組む現状と課題に関し、教育委員の立場からご意見等をいただきありがとうございます。

不登校が小学生段階から増えてきているというのは、牧之原市も国・県と同様で、今市としてもそこにも力を入れているわけです。不登校の要因は様々ある中、行政としてどんな支援ができるかという部分を教育委員会の中で検討し、人的な支援、必要な予算等を整え、そうした中で、今後も不登校に至らないような策も含め取り組んでいかななくてはならないかなと思っています。自分は社会の一員としてどう生きるかという、牧之原市がキャリア教育に力を入れていますけれども、そこはやはりこれからも大事にしながら、進めていきたいと思っています。

またAIの活用に関しましても、今までの一斉学習の中では、理解力ですとか

学習の進度とか一人一人違うわけです。そういう中で個別最適な学びをどう提供するかという点では、このAIの導入というのは、かなり効果が期待できるのではないかなと思っています。それにはやはり教師の指導力が大きく関わってきますので、ソフトを導入して終わりではなくて、それを活用して、いかに日々の授業、学びを充実させていくかというところにも力を入れていきたいと思っています。不登校、AIを活用した教育の充実という2点について、貴重なご意見ありがとうございました。

○杉本市長

ありがとうございました。私の方からも少し感想ですが、やはり不登校が伸びたと先ほどの近江先生の分析にもあったように、コロナはすごく大きいと思います。あれ以降だいぶ世の中も変わりましたが、学校現場も子どもたちの考え方も変わったんだろうなというのをすごく感じました。

そういう中で先ほどの宮部先生のお話の中で、その学校の役割というか、なぜ学校行くのだろうというところがすごく重要だなと思いました。最近こう感じるのは、僕らの時代という、その昔の時代がいいとか悪いとかではなくて、僕らの時代は、例えばそれぞれ音楽の得意な子は音楽が得意なところを発揮できる場があったり、運動が得意な子が運動が得意なところを発揮できる場所があったり、絵を描くことが得意な子、字を書くことが得意な子が発表できる場があったりと思いましたが、今は音楽発表会もなくなってしまったし、陸上競技大会もなくなってしまいました。ですから、校内の運動会ぐらいしかないというところが、僕はこうしたものを導入しながら、学校に行く楽しみとは何だろうということをもみんなで考えていく必要があるかなと感じました。

それからAIに関しては、繰り返しになりますけど、どの教師もどの学校も同じように使えるような環境づくりというのを目指してほしいです。今、3年間というスケジュール感がありますが、3年間では置いていかれてしまうのではないかと思うので、3年ではなくて2年ぐらいでやってほしいなと思いますので、ぜひともよろしくお願ひしたいと思っています。

それでは、2点目の協議事項はここで終わりとさせていただきます。

4 報告事項

制服について

○杉本市長

次に報告事項ということで、制服について報告をさせていただきます。

●学校教育課 宮部指導主事

【 制服について の資料を用いて説明 】

○杉本市長

以上で協議事項及び報告事項は終わりとさせていただきます。それでは進行を事務局のお返しします。

5 閉会

○横山総務課長

それでは最後に一点だけご連絡をさせていただきます。本日の会議につきましては、会議録を作成することとなっております。後日、内容の確認について皆様のところにご依頼をさせていただきますので、お手数をかけますが、ご協力をお願いしたいと思います。

それでは以上をもちまして、令和6年度総合教育会議を終了させていただきます。ありがとうございました。